

## ダビデとゴリヤテ

(サムエル17・1〜58)

### 一、ペリシテ人

ペリシテ人と呼ばれる人たちがいました。「海の民」と呼ばれることもあったようです。地中海の方から、パレスチナにやって入って来た人たちだったようです。彼らはパレスチナに住み着き、イスラエル人よりも強くて、しかも(イスラエルの)サウル王の時代には鉄を扱い、鉄の武器を持っていました。対して、イスラエル人は一昔前の文化に生きていました。すなわち、青銅器です。皆さん、考えてみてください。兵士が戦う際、片方は鉄の剣を持ち、もう片方は青銅の剣を持っていたとします。どちらが有利ですか。青銅も、銅に比べれば硬いですが、鉄の武器には歯が立ちません。ペリシテ人は鉄の武器を持ち、イスラエル人は青銅の農耕具しか持っていませんでした。こういうわけで、ペリシテ人は圧倒的に強かったのです。

### 二、ダビデとゴリヤテ

そういう、強いペリシテ人が戦いのために軍隊を召集し、谷を挟んでイスラエル人に対して睨みをきかせました。片やイスラエル人は谷を挟んでペリシテ人の反対側に陣を備え、両者は相対

しました。

ときに、ペリシテ人の陣営から、少年の頃より訓練を受けた戦士ゴリヤテが出て来て、イスラエル人に向かって暴言を吐き、イスラエルの神をなじりました。彼は、身長が3メートル弱、青銅のかぶとをかぶり、約60キログラムのよろいを身に着け、足には青銅のすね当て、背中には青銅の投げ槍を持ち、槍の穂先は鉄製で7キログラムもあったと描写されています。この巨人が連日、朝と夕に姿を現し、大きな声で叫びました。8節〜9節です。ゴリヤテは立って、イスラエル人の陣に向かって叫んで言った。「おまえらは、なぜ、並んで出て来たのか。おれはペリシテ人だし、おまえらはサウルの奴隷ではないのか。ひとりを選んで、おれのところによこせ。おれと勝負して勝ち、おれを打ち殺すなら、おれたちはおまえらの奴隷となる。もし、おれが勝って、そいつを殺せば、おまえらがおれたちの奴隷となり、おれたちに仕えるのだ。」この圧迫を前にして、イスラエル人はサウル王を始め意気消沈してしまいました。イスラエル人はペリシテ人と戦っていないのに、すでに戦意を失っていました。すなわち、イスラエルは神経戦においてペリシテに負けていました。

ときに、再びゴリヤテが現れました。23節です。ダビデが兄たちと話している時、ちょうどその時、ガテのペリシテ

人で、その名をゴリヤテという代表戦士が、ペリシテ人の陣地から上って来て、いつもと同じ文句をくり返した。ダビデはこれを聞いた。この時、イスラエル人はみな逃げてしまいました。ダビデはちがいました。36節です。このしもべは、獅子でも、熊でも打ち殺しました。あの割礼を受けていないペリシテ人も、これらの獣の一匹のようになるでしょう。生ける神の陣をなぶつたのですから。」と。

こうして、ダビデはゴリヤテと戦うことになりましたが、ダビデはこの戦いを、信仰の戦いとして捉えています。47節です。この全集団も、主が剣や槍を使わずに救うことを知るであろう。この戦いは主の戦いだ。主はおまえたちをわれわれの手に渡される。」と。

ここに、ダビデに授けられた恵みであり、賜物を見ることが出来ます。ダビデには生まれ持った機知に富んだ才能があり、勇気がありました。さらに石投げの達人でした。ですが、それゆえにゴリヤテを倒したという話であつたら、ダビデが英雄になり、主の聖名はあがめられませんが、ダビデは主の聖名が愚弄されたことに怒りを覚えました。ダビデは立ち上がり、ゴリヤテを倒し、主の聖名があがめられる結果が生まれました。ここに、読者はダビデに教えられ、ダビデに励まされるわけです。

### 三、ゴリヤテは誰か、何か

では、私たちにとってゴリヤテとは誰なのでしょう。何なのでしょう。ゴリヤテは、あらゆる意味における神の敵です。たとえば、「神を信じなくてもけつこうやっていける」という価値観です。「神を信じ、神が喜ばれる選択をするのはバカらしい」と思う価値観です。こういう勢力はかなり強いですが、放っておくと、朝に夕に私共に語り続けるようになり、神を信じなくてもけつこうやっていけるぞ」と。そして、すぐに自分の力では太刀打ちできないほど大きく成長します。まさしく、ゴリヤテです。ですが、ゴリヤテは、すなわち悪魔は神の前に力を失いました。キリストが罪の問題を解決されたからです。

そういう意味で、信仰者はそれぞれにダビデです。ゴリヤテに打ち勝つダビデです。悪魔は、この世の繁栄がいかに魅力的で、いかに力強いかを見せつけます。ですがこの世は、すなわちゴリヤテは、神の恵みによって生かされている者たちに勝つことはできません。そういうわけで、信仰は神を信じるところから始まり、信じるところに終わります。

神の恵みに生かされ、恵みによって導かれ、恵みのうちに生涯を閉じる。これこそは、神がイエス・キリストにあって備えられた道です。